

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 遠藤家之進正和
新潟県山岳協会
新潟市南区鷺ノ木新田1049
TEL 025-362-5004

事務局 諏訪恵一
長岡市高畑町610-10
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
委員会代表 浅野亘寛
TEL 0258-52-3998

リハーサル大会終わる 「2」

団体強化総括責任者 渡邊 正之

(長岡ハイキングクラブ)

上位入賞の男女各3名に対して、競技終了後ドーピング検査対象者であることが通知された。男子1位安間佐千選手、女子2位・3位の小田桃花選手と安田あとり選手に対しては、未成年者であることから成人の付添者が必要であると説明があった。JADAドーピング検査員3名では手不足なので、先立って手伝いの人員を出して欲しいという要請が大会運営役員になされた。片桐総務部長をはじめ6名がそれを受けて、早速ドーピング検査手伝いの講習を受ける。競技終了が順位の確定した該当者に、IDカードと書類を持って選手待機所に向いた。小田選手と安田選手の立ち会い付添者は、ともに彼女たちのお父さんであった。両方のお父さんとも愛娘の上位入賞が嬉しくてたまらないという表情をしていた。この様子は、間近で見ているにほほえましい。

ドーピング検査対象選手は上位入賞の男女選手各3名ずつで、先に競技の終了した女子選手が玄関から検査室に設定された更衣室に入った。IDカードぶら下げた選手1名ずつに、アンチドーピング機構の腕章を巻いた補助員が各1名ずつ付き添っている。尿検査を終えた選手はIDカードを首からはずして、選手待機所に戻った。検査に必要な尿の量は90ml以上とあって、すぐに尿が出ない選手もいる。IDカードをぶら下げたまま、水のペットボトルを片手にして検査室から出てきた。競技直前、コールドゾーンに入る前にトイレに行く選手が多い。緊張すればするほど、トイレに行きたくなる経験は誰にでもあるのではないか。ようやく緊張感から解放されてほっとしているのに、さあおしっこを出してくださいと言われても、ほとんどの人は困るであらう。さつき何遍も無理して出してしまったよと言いたいだらうなあ。水を短時間に沢山飲み過ぎると、尿の比重が軽くなって、再検査が必要になることも聞いた。結局、男子選手は4時に始まった表彰式前に検査の手続きのみを済まして、表彰後に検査を受け

た。時計の針が7時を指した頃、会場の大部分は照明の光を落としてほとんど人影もなくなっていたが、男子選手1名がペットボトルを手にしたまま立会付添者と共に立っていた。大会成績は日山協やJFAのホームページに大会終了後すぐに掲載された。上位入賞者と北信越ブロック5県関係選手の成績を抜粋してみた。新潟県からは、1週間前に同じ会場で実施された新潟県予選会で上位を占めた成年男女各3名の候補選手がリード競技に出場申込をした。ポルダリング競技には少年男子候補選手が2名、女子候補選手が3名、他5名の選手が競技に臨んだ。

成年男子岩橋由洋選手が準決勝に進んだが、14位で決勝に回ることが出来なかった。平嶋元選手は予選当日の朝、風邪で発熱して、競技参加を見合せた。体調管理失敗はみっともない。国体本番ではこのようなことは許されない。普段の生活習慣をもう一度見直してもらいたい。電話連絡をもらったときは、新型インフルエンザかと心配もした。富山県少年男子橋場友祐選手は1手の差で惜しくも準決勝駒を進めることができなかった。昨年の大分大会では準決

勝まで進んだのに誠に残念。成年女子片桐麻由子選手のみかろうじて準決勝枠26名の中に入った。塚本・瀧澤の両選手はわずかの差で準決勝枠からはみ出してしまった。予選記録を見ると、ポイント30のホルド近辺に何名かの選手が集まっている。ホルドを完全に確保した選手は30ノーマルで、さらに右左どちらかの手を上に伸ばせば30プラスの評価となる。確保できずにホルドに触っただけだと、指の方向で30マイナスか29プラスと評価される。女子の予選成績では、ポイント21と22、30、32で複数選手が集中している。準決勝では26名中9名の選手がポイント26と記録、予選成績がカウントバックで14位から22位に分かれた。男子予選ではポイント25の選手が8名、準決勝ではポイント24、25、26に12名が集まり、順位は11位から22位である。これらの部分でホルドの大きさや形、固定されて向き、ホルド間



健康する選手

の距離が、選手のホールド確保を難しくしてあった。これより下の部分で、出来るだけ腕の負担を少なくして登って来られるかが勝敗を左右する。下部の登りで筋肉を必要以上に酷使してしまうと、ホールドをつかんでも身体を引きつけることが出来なくなつて落下する。壁の9mから上の部分では傾斜が増して、下から見上げると被って見える。そんな部分では、そこに来るまでに、腕の筋肉と指の負担をいかに少なくしてきたかが勝負の分かれ目になる。もちろん、負担を少なくすることを身に付けるために練習を繰り返す。力任せで登っているとこんなことは身に付かないはずだ。福井県所属の廣重幸紀選手は予選7位と健闘した。準決勝では24位で、ルート核心部ふたつ上のポイント26のホールドに達しないうまま終わった。2位・3位入賞の小田選手や安田選手と同じ年代と聞いている。来年以降は北信越ブロックのトップに躍り出てくるだろうし、24回大会では上位入賞するであろう。

成績結果が揭示されると、早速抗議を申し出る選手がいる。抗議内容は、ホールドに触ったから、ポイント数字がひとつ上になって、マイナス表示が付くはずだと言いのが多い。ビデオ判定を行って、抗議が通り成績数字やその付記記号が変更されることもたまにある。それが訂正されて再揭示されると、あいつの成績が修正になったのなら、俺の成績も同じはずだと更に別の選手が口を挟む。準決勝枠に入るか落ちるかの部分での判定抗議ならその気持ちも分らないでもない。準決勝や決勝進出に関わりがない部分での抗議に時間や人手を取られるのは、望ましいこととは思わない。他競技の様に、審判員の判定は絶対なものとして競技を進める必要があると思う。さらに人間が審判をやっている限り、判定の誤りは皆無でないかも知れない。その場合は、数万円程度の供託金を支払って抗議する。判定が覆らない場合は、お金を大会本部が没収すると決めた方がいいのではなからうか。今のままでは取りあえず抗議しておこう、ダメで元々だ、という風潮を増長しかねない。言つた者勝ち審判の権威を軽んじていることになるし、望ましいことではない。審判員自身も数多く大会に参加して、判定技術の研修に励む必要がある。また、普段の練習でも登っている人の手や足の動きを審判員の目で見るともりて心がけていけば、プラスマイ

ナスの判定訓練になる。新潟の国体競技運営の必要性から、多くの人が審判員講習を受け審判員資格を取った。しかし、大会の審判をやったことのある人は限られている。まして、成績処理をして順位付けをしたことのある人はなおさら少ない。新潟県山岳協会として、国体本番までの間にいかに多く審判員研修を設けるかに、国体運営の成功がかかっている。

1週間前に同じ壁を使って、2009新潟カップクライミング大会があった。千葉県から参加の成年女子榊原佑子選手は優勝候補のひとりとして名前が挙がっていた。ポルダリング競技では2位となつて実力を示した。しかし、リード競技では最下位である。スタートしてすぐに緑色のホールドに左足をかけてしまった。進行の都合で、壁にはオレンジ色ホールドのルートと緑色ホールドのルートが作つてあった。オブザベーションの際の説明でルートセッターからオレンジルートに登ることになっていた。うっかり、無意識のうちにオレンジを踏んでしまったらしい。観客席からあつたという声も聞こえ、本人自身も気がついた。

審判員やビレイヤからどのような指示があったのか、なかったのか。榊原選手は少しためらった後に、登りを再開して上を目指した。観客席では、大会では不必要なホールドが壁に設置してあること自体おかしいものだから、榊原選手の手は如何ら成績には影響しないはずだと発言している人もいた。緑ホールドを踏んだ時点で競技を中止すべきだと思いが多かった。

競技が始まると成績を処理する大会本部から人影が消えてしまう。まったく無人になるのは望ましいことではない。元々狭い部屋なのに各種道具類で一杯になっている。誰もいなくなると、それなりに居場所空間が広がる。朝礼や終礼のとき、廊下まで人がはみ出していたのに、不思議な感じがする。10月本番では、ビデオ判定に使う専用部屋があった方がいいし、総務部員の特設部屋も必要だ。ぜひ、プレハブの建物をブルル脇に建ててもらいたいものだ。

表彰式以外の式典は選手の受けが悪い。今回リードカップ出場男子選手アイソレーションゾーンで、開始式に先立って歓迎式典を行った。式の進行は立派に行われたが、歓迎の言葉を述べるはずの木浦市長は議会があつて欠席となつた。代理出席の教育委員長が歓迎の言葉を代読した。選手

に聞くと、競技前の緊張感を欠き、疲れるだけの行事は止めて欲しいという返事が返ってくる。

日本山岳協会の田中文会長が、ひとり会場を回っていた。昨年のリハール大会では、各競技団体の新潟県役員がぞろぞろまわりを取り囲んで説明していたようだ。山岳競技では、そのような場面は見たことはない。山岳競技のやり方は特殊なのであるのか。私には分からない。

新潟国体前ハルサル ポルダリング大会

男子決勝(上位4チーム)

1位 橋本今史・笠原大輔 (長野)

2位 畑野克美・内藤 聡 (山梨)

3位 中村 正・石山 晃 (東京)

4位 渡辺 純・伊藤 涼 (新潟)

女子決勝(上位4チーム)

1位 長谷川千秋・福田宏美 (石川)

2位 阿部紀子・日沼秋乃 (福島)

3位 藤田裕子・越野真理子 (新潟)

4位 辻みらい・五十嵐妹子 (新潟)

文責 渡邊

『2009 トキめき新潟国体』まもなく開催!

第64回国民体育大会本大会は9月26日(土)～10月6日(火)に開催される。開催地の新潟県は『2009 トキめき新潟国体』と銘うつて開催参加するにあたり、当然総合優勝をも視野にいれ準備を整えている。

8月29日「新潟テルサ」において監督会議を終え午前11時から結団式を行い健闘、必勝を誓った。山岳競技は10月3日(土)～10月5日(月)の3日間の日程で上越市安塚区の『B&G 海洋センターアリーナ』を大会会場として準備万端整えて開催を待ちわびている。

【日程】
○10月3日(土) 成年男子リード予選・決勝。成年女子ボールドリング予選。少年男子ボールドリング予選。少年女子ボールドリング予選。

○10月4日(日) 成年男子ボールドリング予選。成年女子リード予選・ボールドリング決勝。少年男子リード予選・ボールドリング決勝。



女子選手のリード競技

リング決勝。少年女子リード予選。

○10月5日(月) 成年男子ボールドリング決勝。成年女子リード決勝。少年男子リード決勝。少年女子リード決勝・ボールドリング決勝。

以上の日程で開催される大会では世界大会で活躍する選手などのトップクラスのクライミングが見られ、それら選手に遜色のない県代表選手の競技ぶりが見ものだ。

【加盟団体各位へお願い】
トキめき新潟国体開催決定と同時に選手役員共々準備に努力して参りました。世界トップクラスのクライミング競技を観戦して下さるようお願いいたします。選手達は自らのテーマ曲をバックに登場、クライミングに挑戦します。ガンバレ・ガンバなどの掛け声で、その面白さと感激を味わって頂きたく宜しくお願いいたします。

◆開催当日は山岳競技会場の安塚B&G海洋センターは周辺駐車場に余裕がなく地区内の走行と駐車は係員の誘導に従って運行しているシャトルバスをご利用下さい。

会報・編集 浅野

賛助会員入金会 三入金のお礼

次の皆様から、ご入金、ご入金を頂きましたので、ご報告させて頂きます。
* 6月26日～8月20日現在の

- ご入金、ご入金状況です。
中村光信(いりやま岳友会) (敬称略、順不同)
- 新潟県山岳協会
会 長 遠藤家之進正和
理事長 森 庄一
総務委員長 遠藤 俊一

新型インフルエンザ流行に注意!

国体実施競技団体長当てに第64回国民体育大会新潟県競技力向上対策本部・本部長馬場潤一郎氏より、新型インフルエンザに関わる諸問題への対応について、注意喚起をうながす指示がでた。本県選手の国体強化活動においても、現時点での新型インフルエンザへの対応を周知の上感染者が出ないよう、発生した場合適切に対応できるように、また新型インフルエンザの感染はもとより、強化活動中の事故等の防止にも努めるよう各競技団团长宛てに指示があった。

静に行動したい。国内でもすでに新型インフルエンザが流行の兆しを見せ始めている。秋に向けてインフルエンザのシーズンとなり、感染する人が2500万人を超えるといわれるから、国体が開催される9月末から10月は感染のピークに入る時期と思われる。ウイルスの特性が変化する可能性を示唆する声もある。また頼りにしているワクチンも1300万人分しか確保できず、慢性の病気をもちの方や妊産婦の方や幼児は重症化しやすいとの事で注意をうながしている。とりあえず出来ることは、外出後のウガイ・手洗いやマスクをかける。などが個人で出来る感染予防対策励行を徹底したい。

視察旅行やイベント、会議など一律の自粛は求めないが適切な感染防止対策を講じ通常の生活を続けながら、国、県、市町村等の関係機関やマスコミ報道など新型インフルエンザに関する最新情報の把握に努め、正確な情報に基づき冷

徹底したい。

会報・編集 浅野

登山・スキー・テニスの専門店

ヒトと地球のインターフェイス



新潟市中心区堀之内南1丁目16-52 TEL:(025)241-5134(代)
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行業第053号・IATA代理店 (株) 日本旅行業協会会員
本社 新潟県長岡市幸町1丁目3番5号

http://www.uks.co.jp

- 長岡営業所 〒940-0084 長岡市幸町1丁目3番5号 (0258)33-7123
一総務行業務課主任 島 隆樹
- 新潟営業所 〒950-0918 新潟市中央3丁目2番11号 (025)246-2266
一総務行業務課主任 中島 豊

越後の山に見られる
変種植物

むささび会 加藤 明文

◆ モミジハグマ属
ainsiaca

③7 オクモミジハグマ



母種 モミジハグマ
韓国岳 8月15日



▶ オクモミジハグマ
飯豊山 8月17日

亜高山帯の林間の花。県内でも飯豊連峰、妙高連峰、谷川連峰など大きな山に多い。母種は西日本山に産するモミジハグマ acerifolia (カエデに似た葉を持つ) 葉の切れ方が広くおおざっぱなのに対しやや深く細く切れ込む。変種名 Var. subapoda (やや無柄の) で花柄はあるがわずか。ハグマとは白熊と書き支那やチベットに住む牛に似た獣で、この尾と花がそっくりからの名と云われる。

編集こうき

▲ ススキの穂波が、すっかり爽やかになった風にそよぎ、「アキアカネ」の群れも下がって来てこのあたりの山麓を嬉々として舞っている。毎年見られる風景で何も変わったことはない。だが少し変だ、朝7時過ぎだから早い通勤の人の車も通る、散歩途中の我が家のダルメシアンの周りをうろついて時々フーツと威嚇する。場所も市の支庁舎の近くだから街の真ん中と言える。通りがかりの車が止まって、なんですかと聞くから「ハクビシン」だと答えた。夜行性の動物が今頃の時間徘徊するのは珍しい。なんとなく夕暮れの空を舞う「コウモリ」の群れを最後に見たのはいつだったろうと想った。

▲ 第91回全国高校野球選手権大会で県勢の高校が初めて決勝戦に駒を進めた。6点差で最終攻撃も2死で土壇場を迎えた。県勢球児の仲間を信じる気持とあきらめない信念が1点差まで、あわや逆転まで追い込んで敗れたが、なんとも清々しい感激を味わった。

▲ 「栃尾あぶらげ」はいろいろな食べ方がある。今回は呼称は悪いが「出戻り焼き」などどうだろう。油で揚げたのもう一回油で炒めるからそうよぶが悪気はない。2〜3人前として、あぶらげ2枚を一口大のサイコロに切っておき、良く熱した中華なべに野菜炒めより少し多いサラダ油とバターかマーガリンを入れて切り口が狐色で少しカリッとするまで炒める。鍋のふちに沿って香ばしさを出すため醤油を入れ直し、香味用にタツブリのキザミネギも混ぜ合わせて出来上がり。器に盛ったらカツオブシをブツと乗せて、ポン酢か、つけ醤油でどうぞ。忘れられない一品となる。

会報・編集 浅野

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー



パーマーク
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL.0258(37)1200-FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>



JTB関東 法人営業新潟支店

新潟市中央区古町通6-976

TEL:025-224-2201 FAX:025-229-5775

<http://www.jtb.co.jp/shop/houjinnigata/>

※“旅”の最新情報、ご覧になれます。

E-mail:h_mitani388@jtb.jp